

平成29年度 横浜国立大学大学院国際社会科学府  
専門職学位課程 法曹実務専攻（法科大学院）

法学既修者コースB日程入学試験

# 刑事系科目

時間 11:00～12:15

●注意事項（よくお読みください）

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
2. 自分の受験番号と机の上の受験番号が同じであることをよく確かめてください。
3. 時計のアラーム、携帯電話等の電源は切ってください。
4. 机の上に置いてよいものは、①受験票、②筆記用具（鉛筆、ペン、消しゴム）、③鉛筆削り（電動式を除く）、④時計（携帯電話やPHSを時計として使用することは認めない）、⑤メガネ、⑥目薬、⑦ティッシュペーパー、⑧ハンカチです。これらは、予め机の上に置いておいてください。
5. 上記4で掲げた試験のために必要なもの以外は、かばんに入れて椅子の下に置いてください。電源を切った携帯電話も、身につけず、かばんに入れてください。
6. 配布物は、①問題冊子、②解答用紙、③下書き用紙、④六法の4種類です。足りないものがあったら、挙手で合図し、試験監督にその旨申し出てください。
7. 解答用紙の所定の欄に、受験番号と氏名を記入してください。解答用紙は、全部で3枚あります。そのすべてに受験番号と氏名の記載欄がありますので、漏れなく記入してください。なお、解答用紙はホチキスで綴じられていますが、その針は外さないでください。
8. 試験問題は、問題1～3の3つがあります。必ず指定の解答用紙を使ってください。解答用紙はそれぞれ両面になっています。
9. 試験時間は、75分です。中途退席は原則として試験開始後40分まで認めません。また、中途退席者は、再度入室することができません。試験終了直前の10分間も退席できませんので、よく注意してください。ただし、気分が悪くなったときや、トイレに行く必要があるときなどは、近くの監督者に挙手で合図し、遠慮なく申し出てください。
10. 試験開始後、受験者本人であることの確認（写真照合）を行います。その際は、監督者にご協力ください。



以下の3問、問題1から問題3にすべて解答せよ。

(配点：全問とも50点)

### 問題1

Xは、独自の治療を施す特別の能力を持つ者としてAらの信望を集めていた。Aは脳内出血で倒れて入院し、意識は回復したものの水分の点滴等を要する状態にあり、生命に危険はないが数週間の治療を要し、回復後も後遺症が見込まれた。

Aは、後遺症を残さずに回復できることを期待して、電話で治療をXに依頼した。そこでXは、自宅でAの治療を行おうと考え、Aを入院中の病院から自宅に運び出した。

Xは、マッサージなどをAに施したものの、翌日にはAの容体は悪化した。Xは、放置すれば死亡するかもしれないと思ったが、死んでもやむを得ないと考え、Aの生命維持のために必要な医療措置を受けさせないままAを放置し、Aを死亡させた。

Xの罪責を論じなさい（特別法については論じなくてよい）。

### 問題2

Xは、スナックのホステスAと仲良くなり、結婚の約束をしたが、両親が反対したため、Aに別れ話を切り出した。しかしAが、「それなら心中したい。」と言ったため、Xはやむをえずこれに同意した。

Xは青酸カリを準備して、Aと共に、紀伊半島南端の山中へ、自己の運転する自動車で行ったが、その時には心中する意思はすっかり失せており、Aを死亡させた後、こっそり自宅に帰るつもりであった。

目的地に到着すると、XはAに青酸カリを渡した。AはXが追死してくれるものと信じて、青酸カリを飲み、約1時間後に死亡した。

Xの罪責を論じなさい（特別法については論じなくてよい）。

### 問題3

職務質問に伴う所持品検査の許容性について、関連する判例の趣旨を踏まえつつ、説明しなさい。